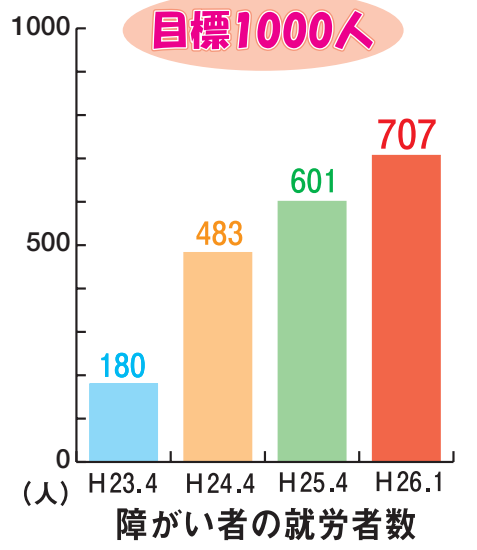


障がい者千人雇用

「働きたい！熱意を実現」

障がいがある人1000人の雇用を目標とし、雇用の場の創設や就労の安定化に向けて取り組んでいる総社市。事業開始後、着実に働く障がい者が増えています。積極的な就労支援の取り組みが、企業の雇用への理解を深めるとともに、障がい者自身の自立意識を高めています。



平成23年4月から障がいがある人の自立に向けての取り組みがスタート。平成28年3月末までに1000人を目標に掲げ、障がい者の就労支援に取り組んでいます。

1月29日には、今回で3回目となる障がい者と企業の出会いの場「障がい者ワークわくそうじゃ就職面接会」を総合福祉センターで開催。市内外の製造業や食品業などの企業12社、福祉的就労で雇用契約を結ぶA型事業所4社、雇用契約を結ばないB型事業所1社の計17社が面接窓口を開設しました。合計求人数は70人

以上。参加した障がい者43人は、自分の希望、能力に応じた事業所や職種を選び、真剣に面接に臨んでいました。また、会場では、障がい者千人雇用センターのスタッフが、一人でも多くの人が就職できるようにアドバイスや声かけなどのサポートをしていました。



障がい者千人雇用センターのスタッフ。ハローワーク総社や基幹相談支援センターなどと連携をとりながら、毎月約220件程度の障がい者やその家族からの相談を受けている。「働きたい、自立したい障がい者の思いをかえたい」と中井センター長は話す



シノプフーズで昨年8月から働いている松下田武さん(泉)【写真左】。コンテナの洗浄を担当している。休憩時間にいっしょに働く小松さんと談笑。「仕事は楽しい。休みの日に鉄道で旅行したい」と話す



障がい者千人雇用センターの前田さんは、松下田さんの就職後の様子を聞くため、定期的に職場を訪問。「就職することだけが目的ではなく、仕事を継続していけるようサポートしていくことが大切」と話す



シノプフーズ株式会社
「松下田さんはとても勤勉で、会社の戦力として信頼しています。雇用を継続するためには日ごろからのコミュニケーションが大切だと思っています」と、シノプフーズ株式会社岡山統括本部総務部の岩田一郎総務課長は話す

今年で3回目となった「障がい者ワークわくそうじゃ就職面接会」。市が主催となり総社地区雇用開発協会、ハローワーク総社、総社商工会議所と連携して開催している

企業が障がい者の雇用に理解を深め、働き続けられるよう職場環境を工夫することで、安定した就労が実現しています。また、企業の期待に応えられるよう、仕事に対して真剣に向き合ってもまれていきます。これからの障がい者雇用は、企業が障がい者を貴重な労働の担い手として捉え、能力をうまく引き出すための配慮に目を向けていくことが必要とされます。

就労を支援する福祉的な場も増加。雇用契約を結ぶ就労継続支援A型事業所や、雇用契約は結ばないものの就労機会や生産活動機会を提供する就労継続支援B型事業所の市内への開設が進み、1月末現在でA型は5事業所、B型は7事業



職場の先輩の小倉さんと大好きなコーヒーの話をする小西さん。仲間とのコミュニケーションの時間が仕事にいい影響を与えている

所となつていきます。障がい者の特性に合った新たな職場の創出により仕事の選択肢が増え、就労の安定化や多様化につながっています。しかし、障がい者の就業意欲は高まってきているものの、就職の実現が困難な人もまだまだ多数います。今後も働きたいと思っっている障がい者がそれぞれの能力と適正に応じた雇用の場に就き、仕事を継続するこ

とで自立した生活ができるよう支援していきます。
問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎028269) 総社市障がい者千人雇用センター (☎028379)



サンロード吉備路で平成24年9月から勤務している小西竜二さん(久代)。広大な施設の草取りや清掃を担当する。「仕事は大変だけど、きれいになるとうれしい。将来は自立したい」と話す

企業の理解が力を引き出す



サンロード吉備路 谷本耕一支配人
庭がいつもきれいなのは、小西さんが休まず根気強くやっている成果。仕事・役割の大事さを伝え、社会の一員として役立っていると認識してもらうことが、仕事を継続していく力になると思う